

2016年4月10日

福音書からのメッセージ

イエスは、「さあ、来て、朝の食事をしなさい」と言われた。弟子たちはだれも、「あなたはどなたですか」と問いただそうとはしなかった。主であることを知っていたからである。

(ヨハネによる福音書21章12節)

今回、イエス様はティベリアス湖畔で弟子たちに現れました。ティベリアス湖畔はガリラヤにある場所です。今まで復活のイエス様が現れたのはエルサレムで、宗教や政治の中心地でした。片やガリラヤは生活の場です。人々が日常生活を送り、生きている場所、それがガリラヤです。

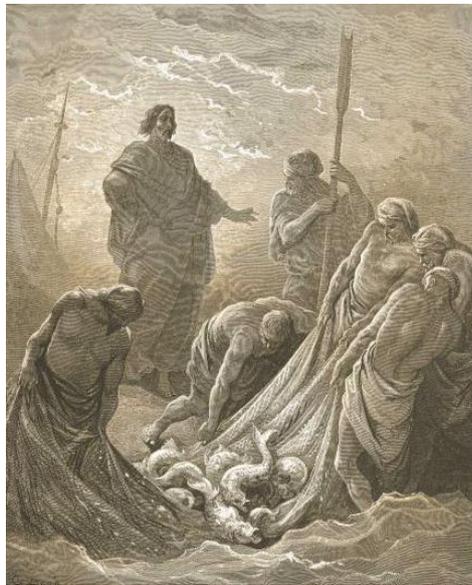
このことは、わたしたちにとっても、とても嬉しいことです。エルサレムのような場所に行かないと復活のイエス様に会えないのであれば大変です。でも普段、わたしたちがいるところに来てくださるのがイエス様なのです。

弟子たちは漁に出かけました。お腹がすいたから仕方なく行ったのでしょうか。そうではないと思います。イエス様が彼らを「人間を獲る漁師」として遣わされたから、彼ら弟子たちは漁に出かけたのです。意気揚々として、彼らは舟を沖に漕ぎ出したのではないのでしょうか。

しかし、その彼らを待っていたものは失望でした。彼らは夜通し漁をしました。しかし何も取れませんでした。でもそこにイエス様が来られるのです。

自分たちの力ではどうすることも出来なかったことが、イエス様がいて下さるだけで可能になる。そのような経験はないでしょうか。

仕事で壁にぶつかってしまい、何をしてもうまくいかない。その時にふと、祈りを



忘れていたことに気づき、静かに祈る。すると不思議なことに、それまで見えていなかったものが見えてきて、どうしたらよいかを示される。

人間関係でうまくいかないことがあって、精神的にもイライラしてしまい、もう人と会うのも嫌になってしまう。何も手につかなくなって、目を閉じて涙をこらえていたときに、ふと聖書の言葉が頭をよぎる。その言葉を何度も思い返すうちに、もう一度歩いてみようって気になる。

聖書を通してイエス様は、「わたしはいつも共にいる」ということを、弟子たちに、そして今ここにいるわたしたち一人ひとりに伝えたかったのです。

でも、わたしたちは忘れてしまうのですね。イエス様が一緒にいてくださっていることを。だからわたしたちは、イエス様が共にいることを思い出すために礼拝に集い、聖書のみ言葉を聞き、賛美するのです。そして陪餐にあずかり、それぞれの遣わされた場所に向かっていくのです。

イエス様を感じましょう。そしてイエス様の声に耳を傾け、遣わされた場所で網を打ちましょう。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>